

# 1 みえ森林・林業アカデミーの実施状況

- アカデミーでは、それぞれの役割やキャリアデザインに応じた3つの「**基本コース**」のほか、より専門的な技術を習得するための「**選択講座**」、市町職員対象の「**市町職員講座**」、林業に関心のある人を対象とした「**林業体験講座**」があり、自分にあった講座を選択することができます。



選択講座  
(林業機械メンテナンス)



基本コース  
(労働安全管理)



市町職員講座  
(森林整備・選木実習)

# みえ森林・林業アカデミーの概要（基本コース）

## （1）ディレクター育成コース（2年間、定員5名程度）

- ・森林を経営資源として、多様な価値を創造できる経営者等を育成します。
- ・分野の枠にとらわれない先進的で幅広い知識やスキルを習得します。

## （2）マネージャー育成コース（1年間、定員10名程度）

- ・ディレクターの経営方針を理解し、現場運営の最適化ができる管理者等を育成します。
- ・林業のコスト削減や収益拡大等を実現するため、経営・管理にかかる実践的な知識やスキルを習得します。

## （3）プレーヤー育成コース（1年間、定員10名程度）

- ・将来の森林の姿を念頭に、現場作業を安全かつ効果的に実践できる技術者を育成します。
- ・森林施業の生産性・安全性を高め、効果的な施策を自ら考え実践するため、科学的な知見に基づく専門性の高い知識や技術を習得します。

# みえ森林・林業アカデミーの概要

- 基本コース受講生数の推移

コース・講座名	定員	R1	R2	R3	R4
ディレクター	5名程度	10	10	7	9
マネージャー	10名程度	13	9	9	12
プレーヤー	10名程度	7	6	7	4
基本コース合計	25名程度	30	25	23	25

# みえ森林・林業アカデミーの取組状況

---

## • 久居農林高校との連携

令和3年10月に、三重県林業研究所と三重県立久居農林高等学校との連携に関する覚書を締結し、同校と連携して、1年生から3年生までを対象に一貫した職業教育につながるプログラムの実施を開始しました。

今回の連携により「1年生向けの仕事ガイダンス」「3年生向け資格取得のためのチェーンソー、刈払機安全講習」を新たに導入しました。



# みえ森林・林業アカデミーの取組状況

---

- **他県の林業大学校等との連携**

紀伊半島地域の森林・林業振興を推進するための、**和歌山県農林大学校**との間で締結した、**林業人材育成に関する連携協定**に基づき、令和3年9月に実施したディレクター育成コースの講座（木材利用と流通、製品開発、販路開拓）に、和歌山県の研修生を受け入れました。

奈良県に**奈良フォレスターアカデミー**が開校したことから、和歌山県農林大学校と締結している連携協定に奈良フォレスターアカデミーを加え、令和3年9月30日に、改めて3者で協定を締結しました。

今後は、紀伊半島3県が連携して林業人材の育成に取り組んでいきます。

## 2. 林業研究所アカデミー棟の概要



# 林業研究所アカデミー棟の概要

---

## 建築概要

- 場所：三重県林業研究所敷地内（津市白山町二本木3769-1）
- 構造：木造（1階建て）
- 延べ床面積：831.4 m<sup>2</sup>
- 木材使用量：約340 m<sup>3</sup>
- 供用開始：令和5年4月（予定）

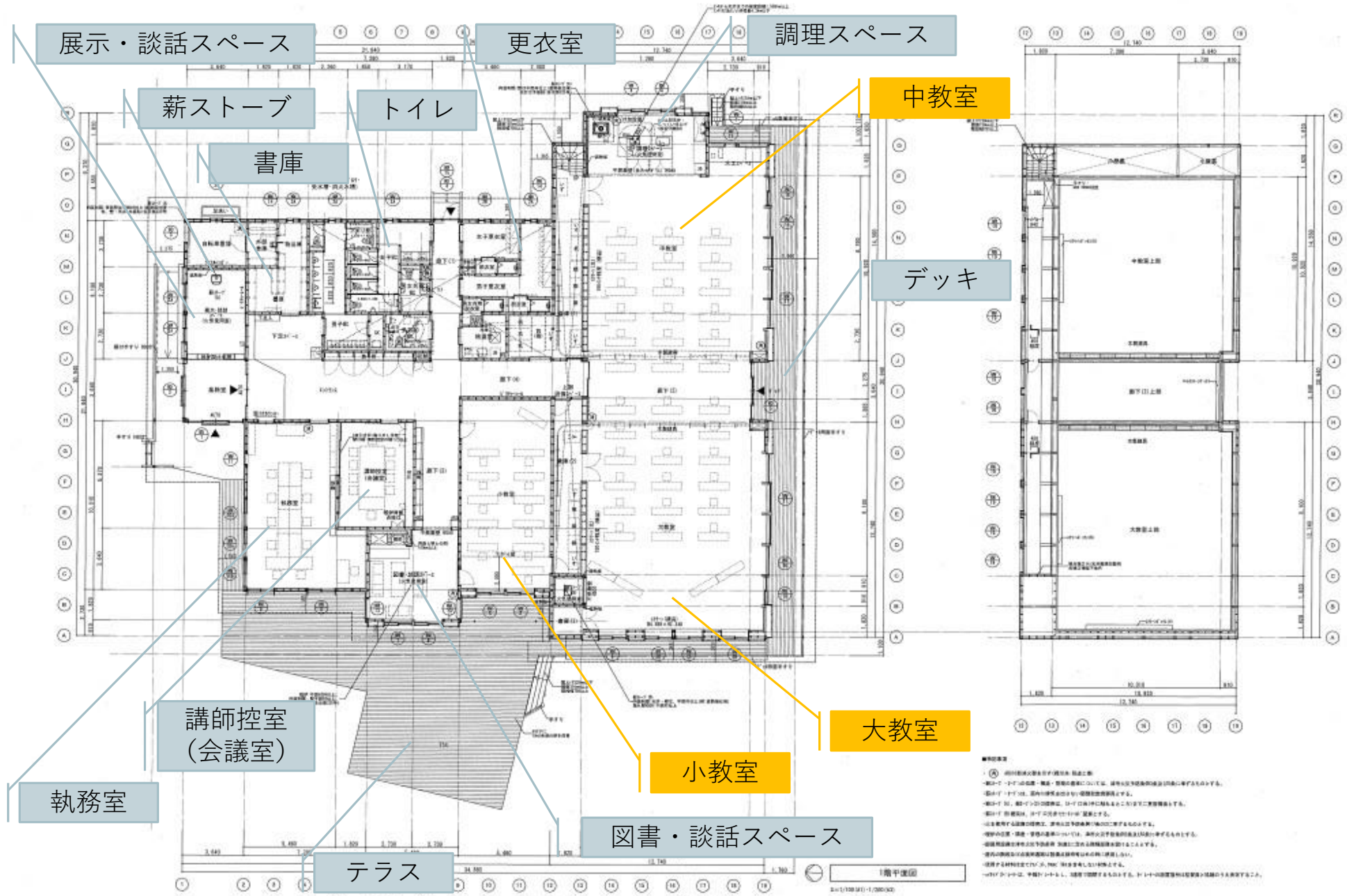
# 林業研究所アカデミー棟の概要

---

## 主な諸室

- 大教室：最大60人程度を収容。
- 中教室：最大40人程度を収容。  
※大教室と中教室は中仕切りを外すことで、100人程度の収容が可能。
- 小教室：最大30人程度収容。
- 談話スペース：エントランスや講義室付近に配置し、利用者の交流を促進
- 図書閲覧スペース：関係図書の配架、閲覧。





平面図

# 林業研究所アカデミー棟の概要

---

## 建物のコンセプト

- ① 県産材の魅力を伝え、県内の他の建築物にも応用可能な工法を用いた建物
- ② 環境への負荷が小さく、周辺の景観にも配慮した施設
- ③ 受講生等の利用者が、単に学ぶだけではなく、交流することも促す施設

# 林業研究所アカデミー棟の概要

---

## コンセプトを実現するための工夫

- ① 県内林業・木材産業の主力である高品質な柱材等の一般流通材を用い、コストや工期を抑えつつ大空間を実現するとともに、建築等における木材利用の教材として、木材による構造や内外装の仕上げが見える設計としています。また、内装に県内各地の木材を用いることで、それぞれの見た目や触り心地等の特徴を体感できる建物としています。
- ② 適正に管理された県産の木材やFSC認証材を用い、気候風土や周囲の環境・景観に適した建築とするとともに、太陽光発電や蓄電池、薪ストーブなどの設備を導入することで、脱炭素や防災にも配慮した建物としています。
- ③ ユニバーサルデザインをはじめ、ジェンダーフリーの観点からも利用しやすい建物とするとともに、談話スペースやテラス・デッキなどの交流スペースを適所に配置しています。





外観イメージ



外観イメージ



内観イメージ

# 林業研究所アカデミー棟の概要 スケジュール（契約状況）

---

- [構造用木材等生産業務委託](#) 令和4年2月28日～令和5年2月21日
- [建築工事](#) 令和4年3月29日～令和5年2月6日
- 機械設備工事 令和4年5月13日～令和5年2月6日
- 電気設備工事 令和4年5月13日～令和5年2月6日

# 林業研究所アカデミー棟の概要 (構造用木材等の調達)

---

- 木材については伐採、製材、乾燥等に時間を要し、また、木材の伐採には適期があることから、必要な部材を確実に調達できるスケジュールとするため、材工分離発注とし、構造用木材等を委託生産しています。

- **品質規格**

- (1) 許容寸法 日本農林規格に準じた規格とする。

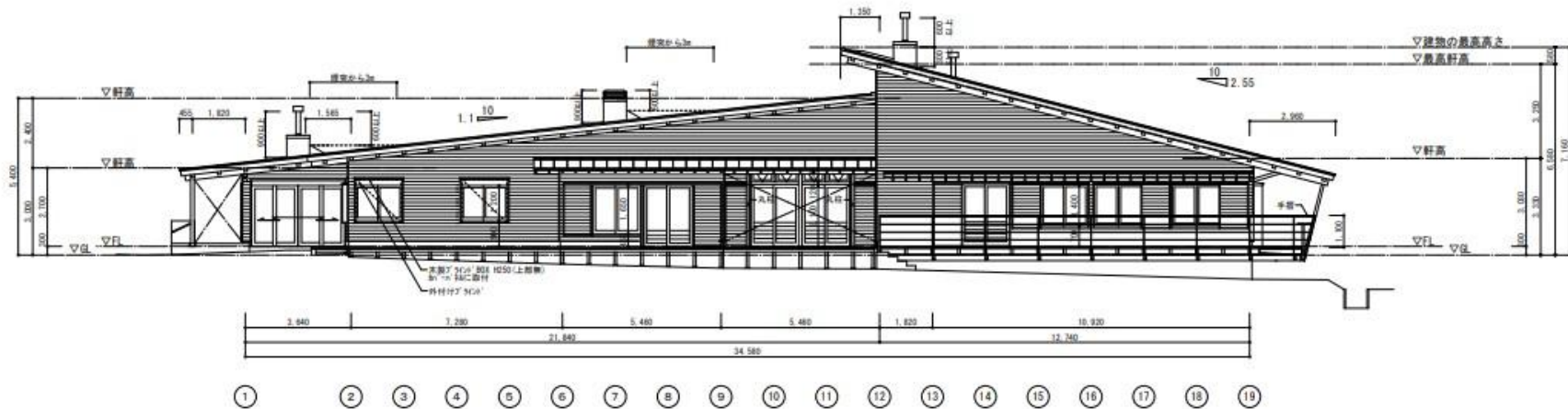
- (2) 含水率 日本農林規格に準じた数値以下とする。

- 構造材：S D 2 0 (20%) , 造作材・板材等：S D 1 5 (15%)

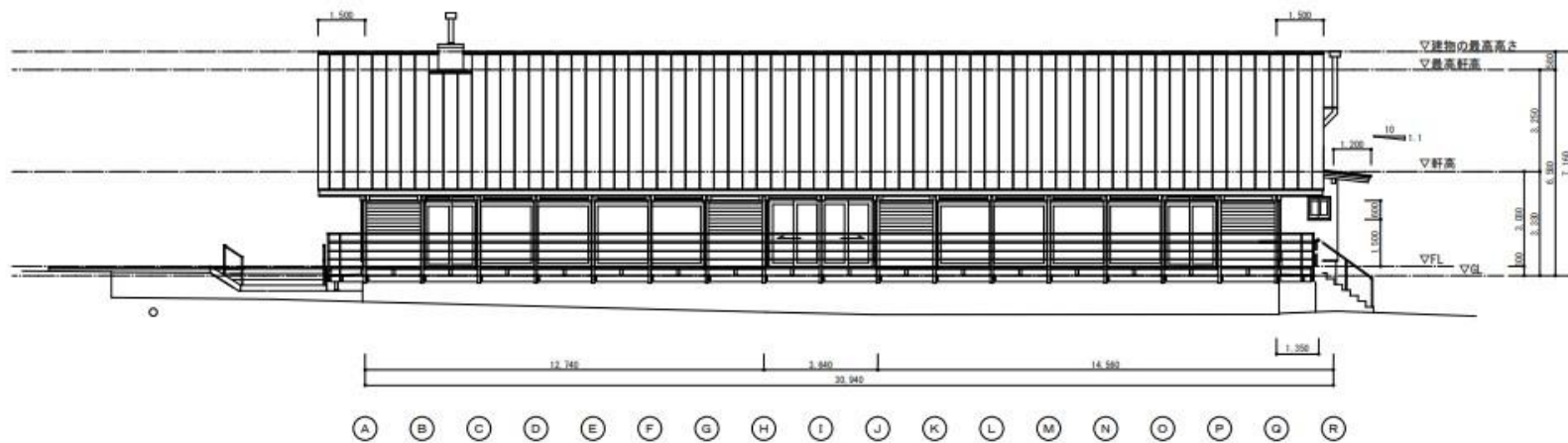
- (3) 曲げヤング係数

- 主要構造部材は日本農林規格に準じ、明細書に記載がある材はその数値以上  
記載がない材は「スギ E 7 0」「ヒノキ E 9 0」以上



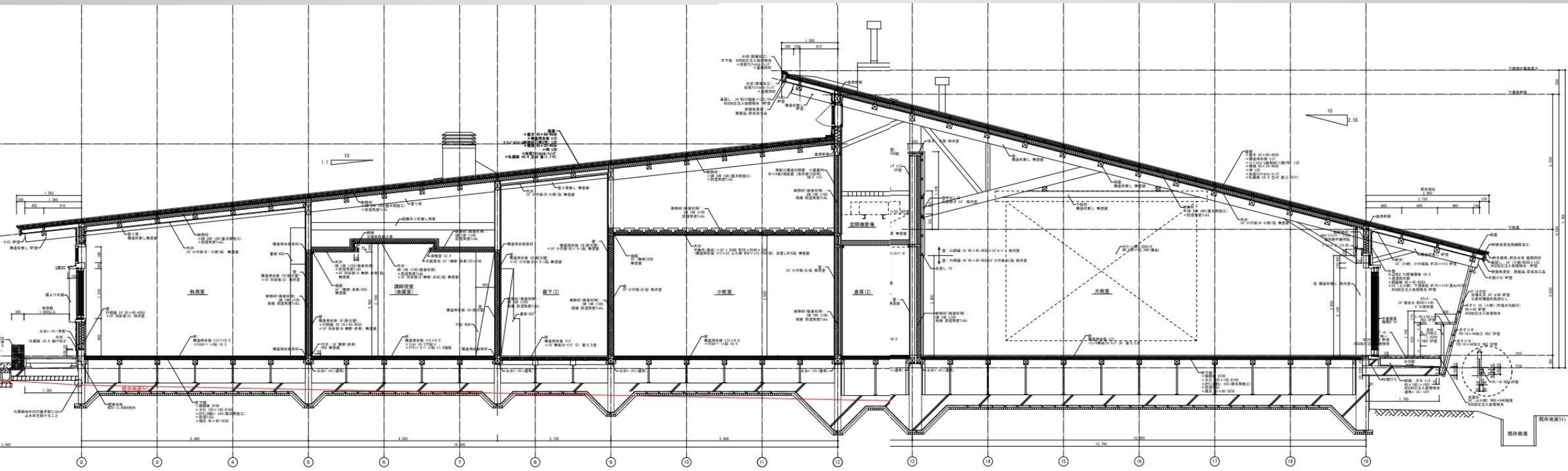


西側立面図



南側立面図









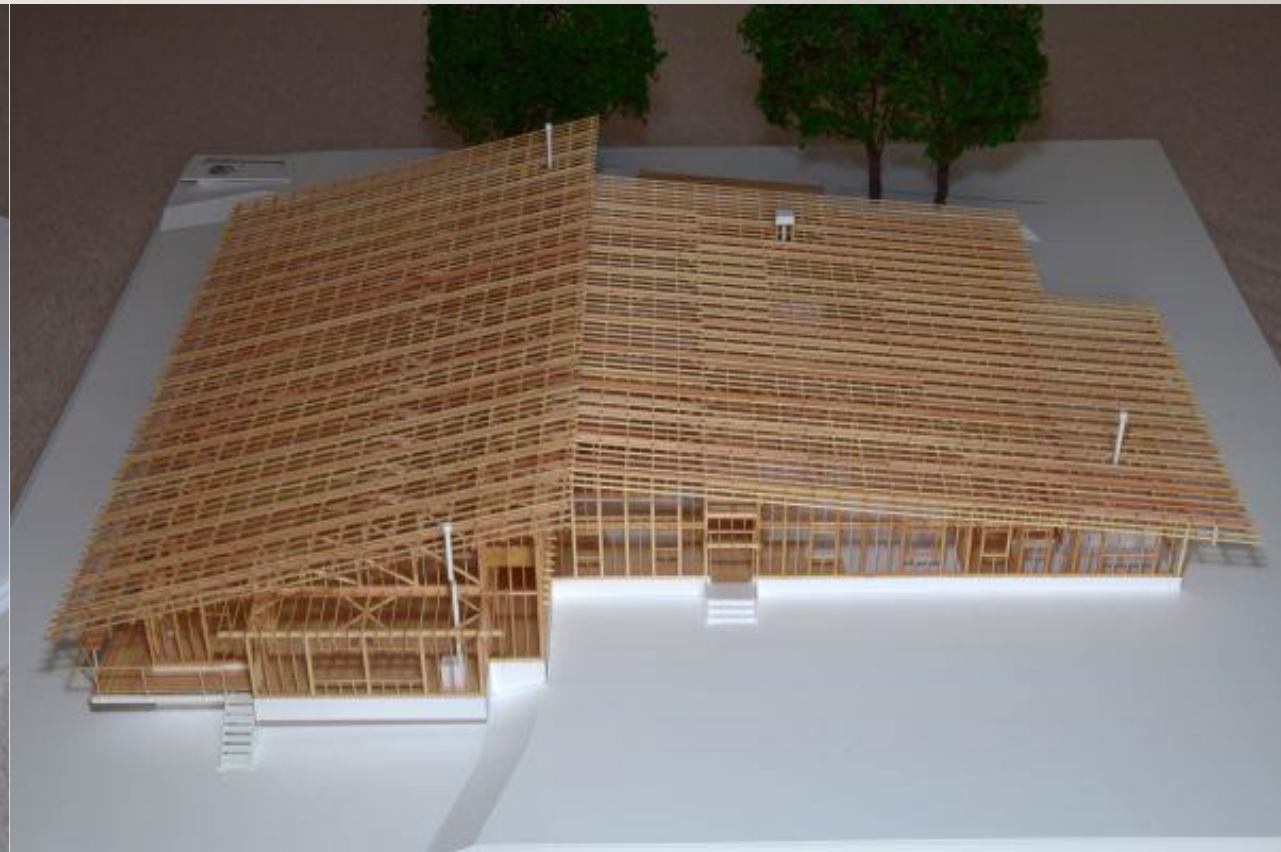
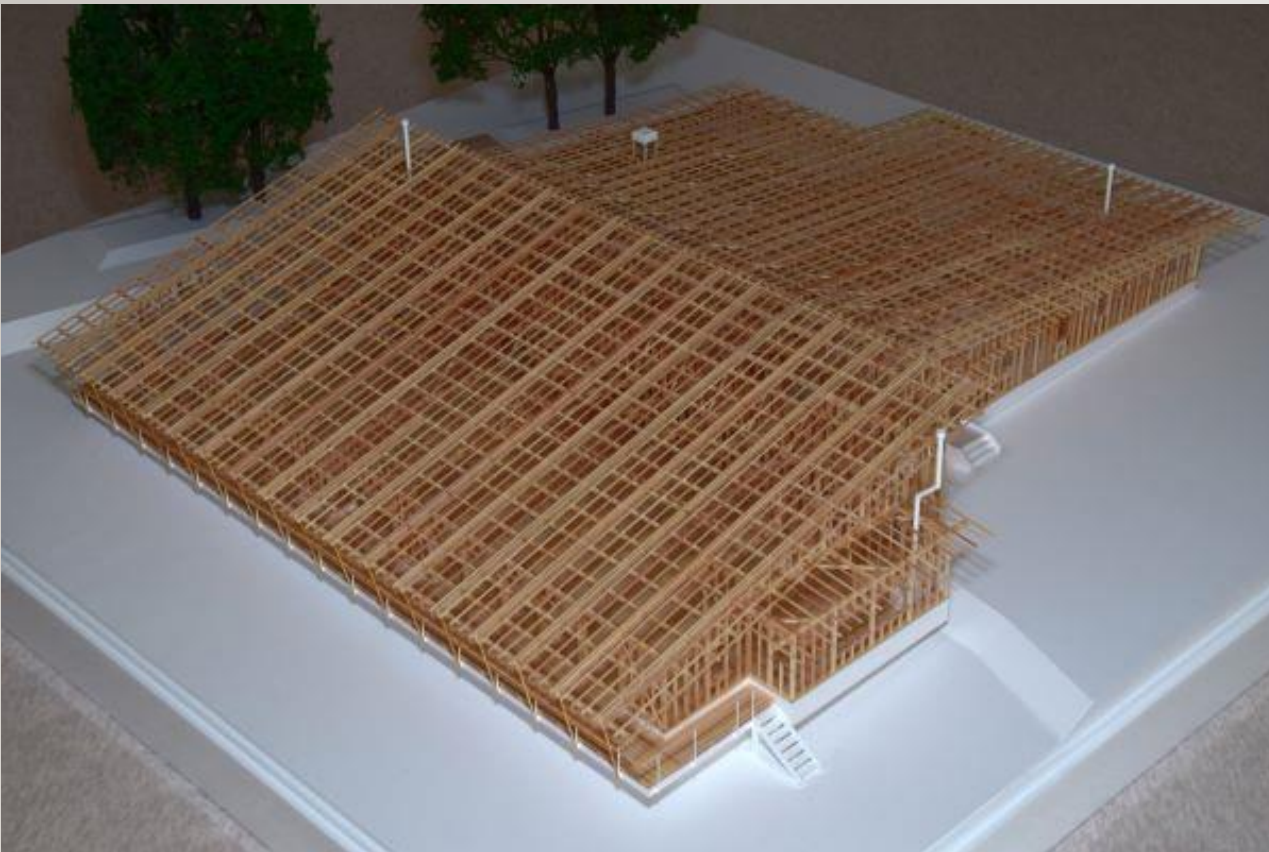
木造軸組模型



木造軸組模型

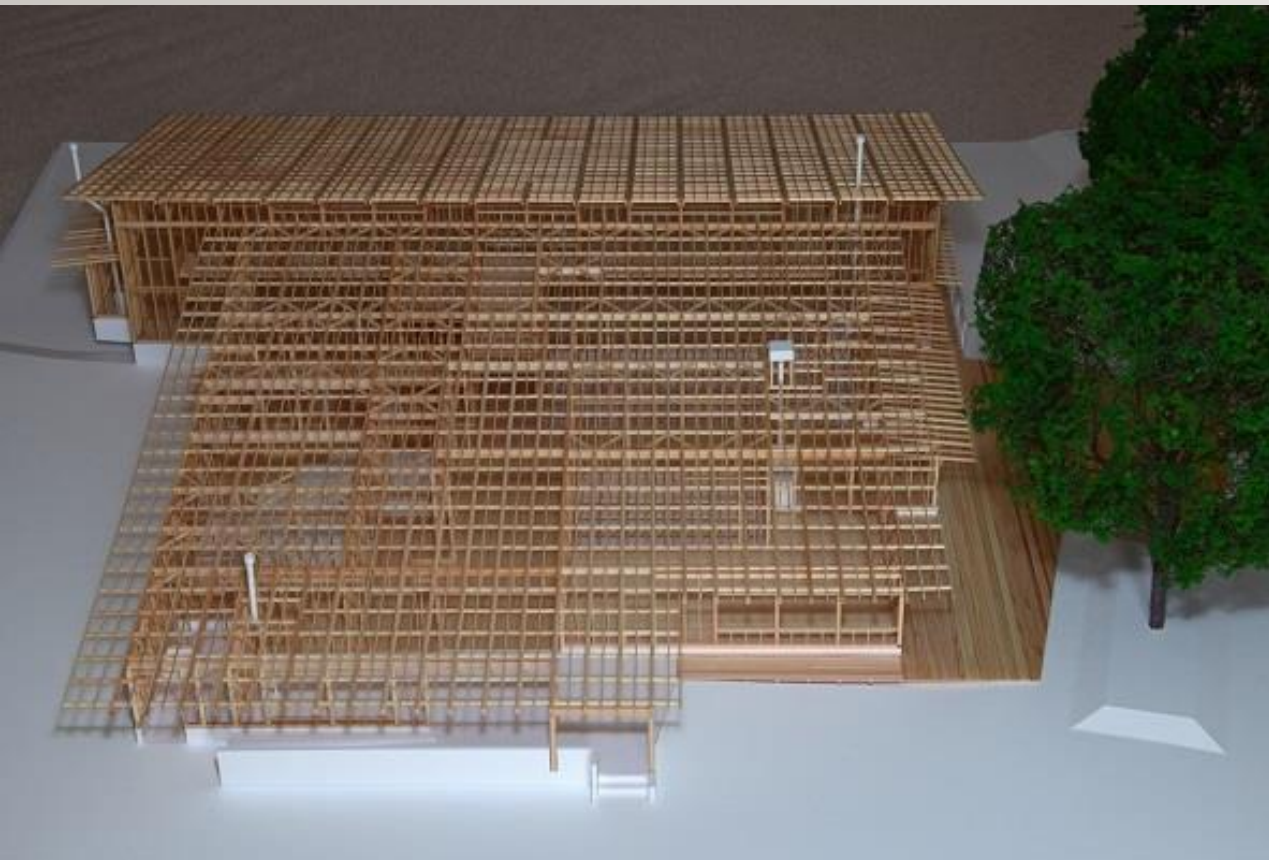


木造軸組模型



木造軸組模型





木造軸組模型



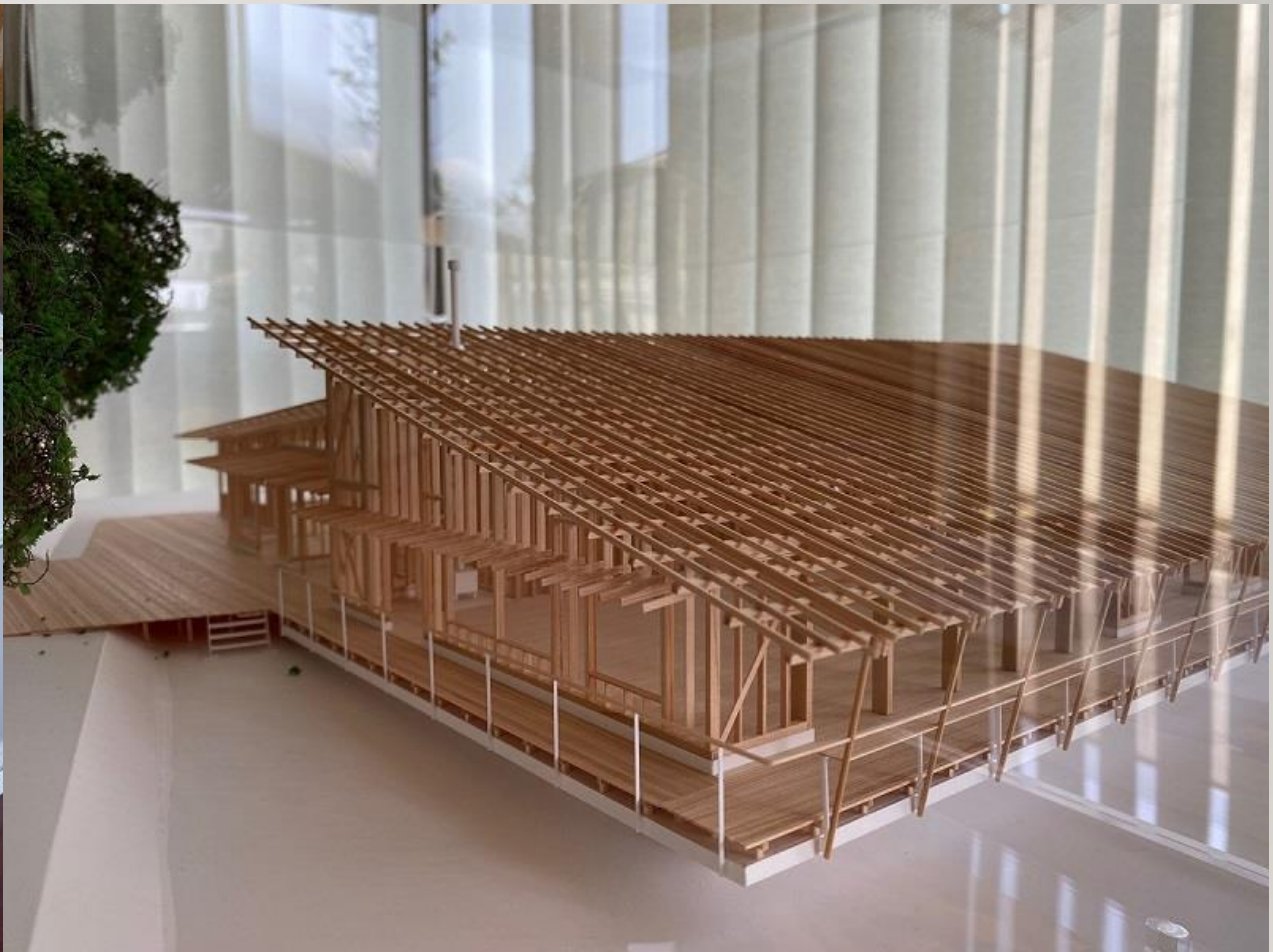
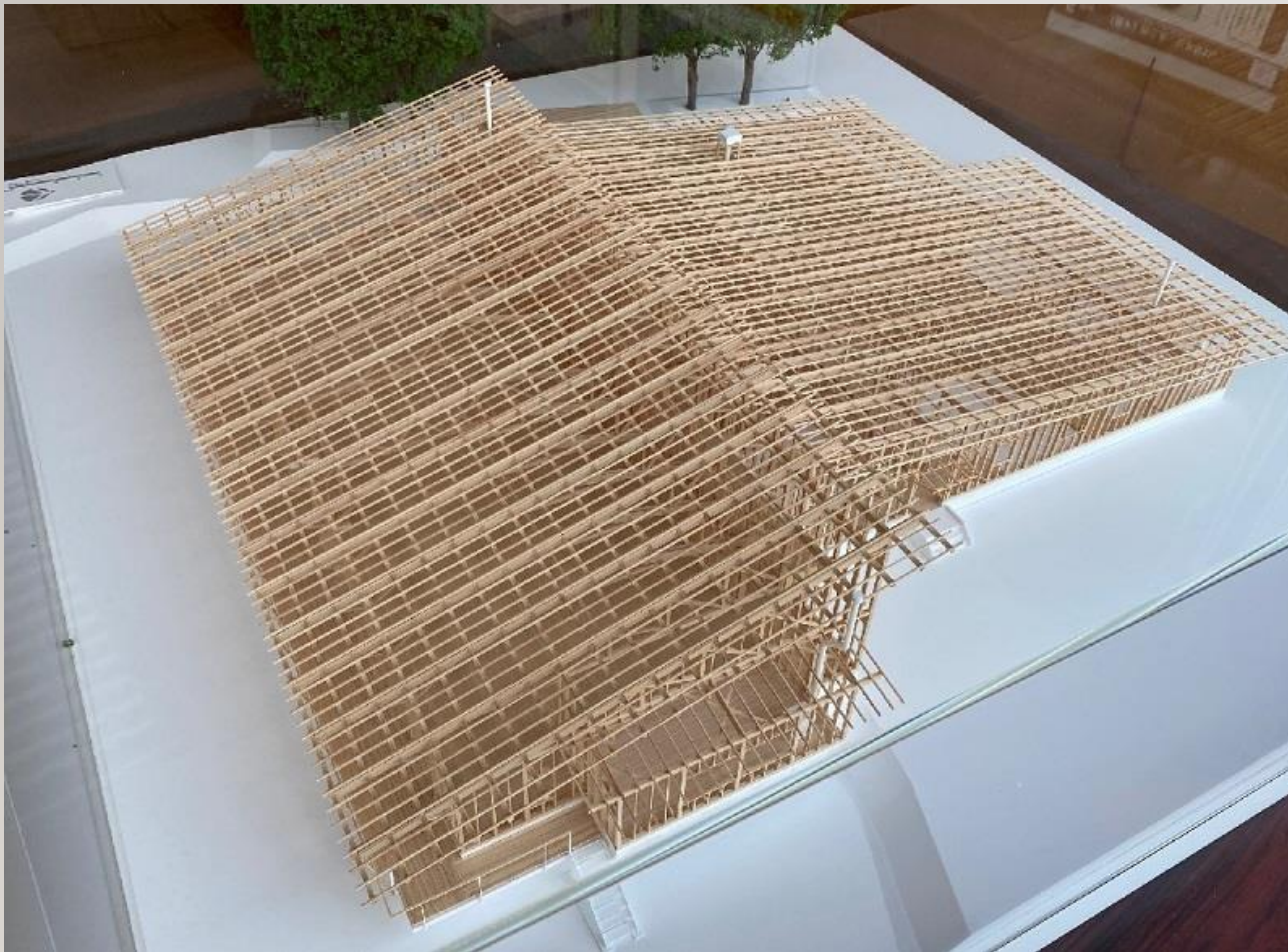
木造軸組模型



木造軸組模型



木造軸組模型



木造軸組模型

# アカデミー棟の建築状況



fine

# 林業研究所アカデミー棟の概要 (構造用木材等の調達)

- 土台 檜 90 × 90×3000 ~ 150×120×4000 約110本 約6.0m<sup>3</sup>
- 大引 檜 105×105×3000 ~ 105×105×4000 約190本 約8.0m<sup>3</sup>
- 根太 杉 45× 60×3000 ~ 45× 60×4000 約790本 約7.5m<sup>3</sup>
- 際根太 杉 45× 90×3000 ~ 45× 90×4000 約80本 約1.0m<sup>3</sup>
- 桁・梁 杉 45 × 90×3000 ~ 120×330×7000 約270本 約20.5m<sup>3</sup> (最多 120×180×4000)  
檜 105×105×3000 ~ 120×300×6000 約290本 約30.0m<sup>3</sup> (最多 105×240×5000)
- 母屋 杉 105×105×3000 ~ 105×105×4000 約170本 約7.0m<sup>3</sup>  
檜 120×120×4000 ~ 120×150×4000 約150本 約9.0m<sup>3</sup>
- 柱 檜FSC 90× 90×4000 ~ 120×120×5000 約130本 約7.0m<sup>3</sup> (最多 120×120×5000)
- 平柱 檜FSC 120×135×5000 ~ 120×300×4000 約80本 約11.0m<sup>3</sup> (最多 120×150×7000)
- 丸柱 檜FSC 90× 90×3000 1本 約0.05m<sup>3</sup>
- 垂木 杉 45× 90×3000 ~ 45×90×4000 約770本 約12.0m<sup>3</sup>

合計

約3,000本 約120m<sup>3</sup>